

# 青森県経済統計報告

令和 2 年 8 月 4 日

企画政策部統計分析課

## 1 青森県の推計人口（令和 2 年 7 月 1 日現在）…………… 1

県 人 口 1,232,681 人（対前月 904 人減少）

自然動態 790 人減少（出生者数 631 人、死亡者数 1,421 人）  
社会動態 114 人減少（転入者数 1,027 人、転出者数 1,141 人）

## 2 本県の経済動向（令和 2 年 5 月・6 月の経済指標を中心として）

### （1）経済概況

本県経済は、新型コロナウイルス感染症の影響から、厳しい状況が続いている。  
なお、直近の景況感（青森県景気ウォッチャー調査・令和 2 年 7 月期）をみると、  
前期から大幅に改善したが、景気の横ばいを示す 50 を下回った。

### （2）主要経済指標の動向

- (2-1) 生産動向 ・令和 2 年 5 月の青森県鉱工業生産指数（平成 27 年=100）は、季節調整済指数が 88.9 で、前月比 8.6%の低下となり、2 カ月連続で前月を下回った。また、原指数は 89.7 で、前年同月比 27.0%の低下となり、2 カ月連続で前年同月を下回った。 … 2
- (2-2) 雇用労働 ・令和 2 年 5 月の定期給与は 220,452 円で前年同月比 0.6%減となった。総実労働時間は 137.4 時間で前年同月比 4.3%減、所定外労働時間は 7.8 時間で前年同月比 15.3%減となった。  
・令和 2 年 6 月の有効求人倍率（季節調整値）は 0.91 倍で、前月を 0.02 ポイント下回った。 … 3
- (2-3) 物 価 令和 2 年 6 月の青森市消費者物価指数（平成 27 年=100）は、総合指数が 101.8 となり、前月比 2.2%の上昇、前年同月比 0.7%の下落となった。また、生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は 102.7 となり、前月と比べ 2.7%の上昇、前年同月比 0.6%の上昇となった。 … 5
- (2-4) 個人消費 ・令和 2 年 6 月の百貨店・スーパー販売額は、全店舗ベースが 148 億円で前年同月比 1.2%減となり、4 カ月連続で前年同月を下回った。また、既存店ベースでは前年同月比 3.6%減となり、4 カ月連続で前年同月を下回った。  
・令和 2 年 6 月の軽乗用車を含めた乗用車新車登録・届出台数は 3,204 台で、前年同月比 15.9%減となり、9 カ月連続で前年同月を下回った。  
・令和 2 年 6 月の主な観光施設の観光入込客数は、37 万 9 千人で前年同月比 56.9%減となり、4 カ月連続で前年同月を下回った。また、主な宿泊施設の宿泊者数は、8 万人で前年同月比 60.6%減となり、5 カ月連続で前年同月を下回った。 … 6
- (2-5) 建 設 ・令和 2 年 6 月の新設住宅着工戸数は 577 戸で、前年同月比 3.2%減となり、10 カ月連続で前年同月を下回った。  
・令和 2 年 6 月の公共工事請負金額は 270 億 1,600 万円で前年同月比 36.8%増となり、2 カ月ぶりに前年同月を上回った。 … 8
- (2-6) 企業倒産 令和 2 年 6 月の企業倒産は、件数は 3 件で前年同月比 50.0%減となった。負債総額は 1 億 5,100 万円で前年同月比 70.3%減となった。 … 8

### （3）景気動向指数 C I（令和 2 年 5 月分）…………… 9

先行指数 75.4（前月を 1.8 ポイント上回り、3 カ月ぶりに上昇した）  
一致指数 46.9（前月を 5.1 ポイント下回り、3 カ月連続で下降した）  
遅行指数 101.0（前月を 2.9 ポイント上回り、2 カ月連続で上昇した）

### （4）青森県景気ウォッチャー調査（令和 2 年 7 月期）…………… 10

3 カ月前と比べた景気の現状判断 D I …… 34.5（前期比 25.7 ポイント増、10 期連続で 50 を下回る）  
3 カ月後の景気の先行き判断 D I …… 38.0（前期比 26.6 ポイント増、5 期連続で 50 を下回る）

# 1 青森県の推計人口（令和2年7月1日現在）

## 【概 況】

令和2年7月1日現在の本県推計人口は、1, 232, 681人で、前月に比べ904人の減少となった。

## ○自然動態

出生者数が631人、死亡者数が1, 421人で、790人の減少となった。

## ○社会動態

転入者数が1, 027人、転出者数が1, 141人で、114人の減少となった。

## 総人口の推移

（単位：人）

	総数	男	女	対前月 増減率	増減数	自然 増減数	出生者数	死亡者数	社会 増減数	県外からの 転入者数	県外への 転出者数
昭 45.10. 1	1,427,520	685,477	742,043	-	10,929	-	-	-	-	-	-
50.10. 1	1,468,646	707,232	761,414	-	41,126	-	-	-	-	-	-
55.10. 1	1,523,907	735,444	788,463	-	55,261	-	-	-	-	-	-
60.10. 1	1,524,448	731,439	793,009	-	541	-	-	-	-	-	-
平 2.10. 1	1,482,873	704,758	778,115	-	-41,575	-	-	-	-	-	-
7.10. 1	1,481,663	704,189	777,474	-	-1,210	-	-	-	-	-	-
12.10. 1	1,475,728	702,573	773,155	-	-5,935	-	-	-	-	-	-
17.10. 1	1,436,657	679,077	757,580	-	-39,071	-	-	-	-	-	-
22.10. 1	1,373,339	646,141	727,198	-	-63,318	-	-	-	-	-	-
27.10. 1	1,308,265	614,694	693,571	-	-65,074	-	-	-	-	-	-
令元. 7. 1	1,248,340	586,255	662,085	-0.078%	-975	-703	611	1,314	-272	1,091	1,363
元. 8. 1	1,247,658	586,057	661,601	-0.055%	-682	-775	643	1,418	93	1,826	1,733
元. 9. 1	1,246,877	585,702	661,175	-0.063%	-781	-856	589	1,445	75	1,692	1,617
元. 10. 1	1,246,291	585,461	660,830	-0.047%	-586	-847	569	1,416	261	1,592	1,331
元. 11. 1	1,245,301	584,988	660,313	-0.079%	-990	-903	646	1,549	-87	1,262	1,349
元. 12. 1	1,244,403	584,597	659,806	-0.072%	-898	-986	575	1,561	88	1,074	986
令2. 1. 1	1,243,282	584,080	659,202	-0.090%	-1,121	-1,018	553	1,571	-103	942	1,045
令2. 2. 1	1,241,902	583,414	658,488	-0.110%	-1,380	-1,230	582	1,812	-150	1,117	1,267
令2. 3. 1	1,240,587	582,838	657,749	-0.106%	-1,315	-973	506	1,479	-342	1,025	1,367
令2. 4. 1	1,234,523	579,730	654,793	-0.489%	-6,064	-976	561	1,537	-5,088	3,634	8,722
令2. 5. 1	1,234,393	579,791	654,602	-0.011%	-130	-856	624	1,480	726	3,211	2,485
令2. 6. 1	1,233,585	579,411	654,174	-0.065%	-808	-819	563	1,382	11	915	904
令2. 7. 1	1,232,681	578,939	653,742	-0.073%	-904	-790	631	1,421	-114	1,027	1,141

## 6 月中の人口動態の推移

（単位：人）

年月		H22.6	23.6	24.6	25.6	26.6	27.6	28.6	29.6	30.6	R元.6	R2.6
自然 動態	出生者数	879	853	692	683	711	750	689	643	624	611	631
	死亡者数	1,289	1,259	1,271	1,229	1,283	1,357	1,330	1,317	1,361	1,314	1,421
	自然増減数	-410	-406	-579	-546	-572	-607	-641	-674	-737	-703	-790
社会 動態	県外からの 転入者数	1,281	1,506	1,270	1,218	1,247	1,257	1,126	1,193	1,109	1,091	1,027
	県外への 転出者数	1,342	1,479	1,236	1,273	1,441	1,371	1,288	1,329	1,273	1,363	1,141
	社会増減数	-61	27	34	-55	-194	-114	-162	-136	-164	-272	-114
増減数計		-471	-379	-545	-601	-766	-721	-803	-810	-901	-975	-904

※1 昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22、27年は国勢調査人口（確定値）。

※2 平成27年11月1日以降の人口は、平成27年国勢調査人口（確定値 総務省統計局 平成28年10月26日）を基礎に推計している。

※3 増減数は、昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22、27年が各々の前回国勢調査、その他が前月推計人口に対するものである。

※4 算出方法

県の推計人口＝前月の人口＋自然増減数（出生者数－死亡者数）＋社会増減数（県外からの転入者数－県外への転出者数）

## 2 本県の経済動向

### (2) 主要経済指標の動向

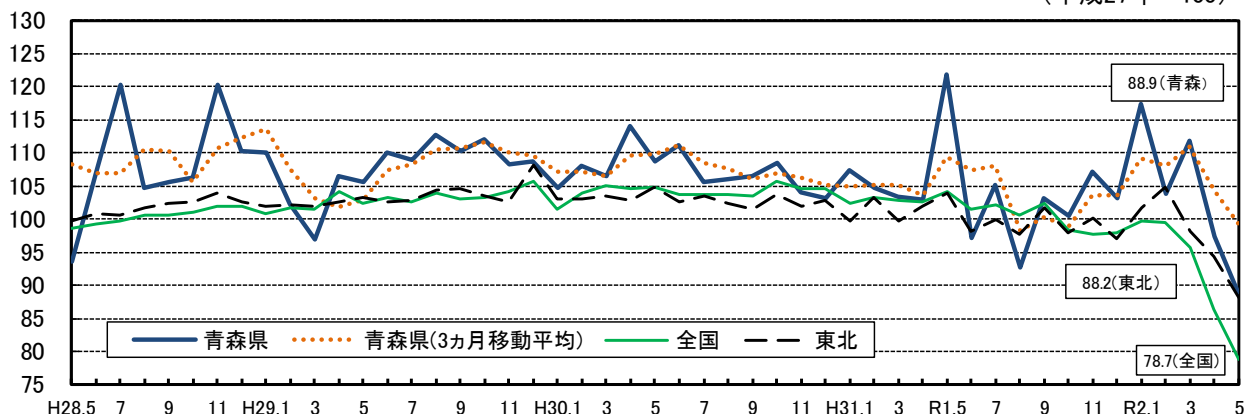
#### (2-1) 生産動向

令和2年5月の青森県鉱工業生産指数(平成27年=100)は、季節調整済指数が88.9で、前月比8.6%の低下となり、2カ月連続で前月を下回った。また、原指数は89.7で、前年同月比27.0%の低下となり、2カ月連続で前年同月を下回った。

季節調整済指数で前月からの動きをみると、非鉄金属工業、輸送機械工業、印刷業等が上昇に寄与した一方、電子部品・デバイス工業、食料品工業、業務用機械工業等が低下し、鉱工業全体では8.6%の低下となった。

青森県・全国・東北の鉱工業生産指数推移(季節調整済指数)

(平成27年=100)

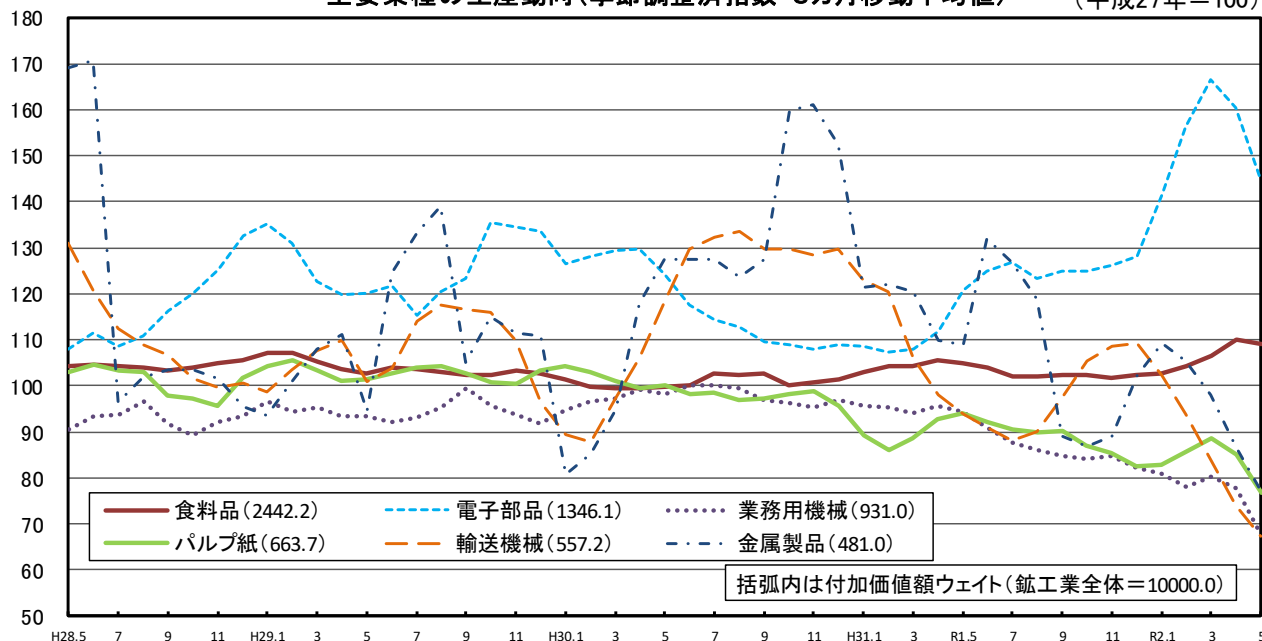


◎業種別動向(前月比) 鉱工業全体 -8.6%

プラス			マイナス		
業種	前月比(%)	寄与率(%)	業種	前月比(%)	寄与率(%)
非鉄金属工業	60.9	12.2	電子部品・デバイス工業	-13.9	-26.5
輸送機械工業	24.0	7.3	食料品工業	-9.4	-25.5
印刷業	12.0	2.1	業務用機械工業	-35.9	-23.9
生産用機械工業	3.6	2.0	化学工業	-49.2	-17.7
その他製品工業	4.7	0.3	電気機械工業	-12.1	-5.7

主要業種の生産動向(季節調整済指数・3カ月移動平均値)

(平成27年=100)



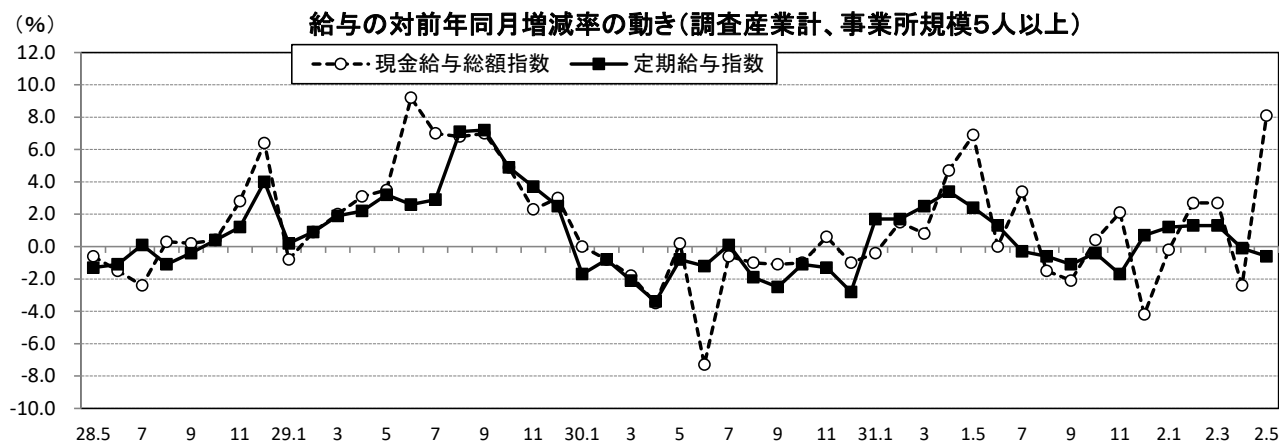
資料：県統計分析課「青森県鉱工業生産指数(速報)」

## (2-2) 雇用労働

### (2-2-1) 給与・労働時間（毎月勤労統計調査結果）

令和2年5月の定期給与は220,452円で、定期給与指数（平成27年＝100）では102.0となり、前年同月比0.6%減と2カ月連続の減（現金給与総額259,811円、現金給与総額指数103.6、前年同月比8.1%増）となった。また、実額で比較した定期給与の全国対比は85.5となった。

総実労働時間は137.4時間で、総実労働時間指数は88.9となり、前年同月比4.3%減と2カ月連続の減となった。このうち、所定外労働時間は7.8時間で、所定外労働時間指数は67.8となり、前年同月比15.3%減と2カ月連続の減となった。



資料：県統計分析課「毎月勤労統計調査結果（速報）」

### 給与及び労働時間の全国との比較（調査産業計、事業所規模5人以上）

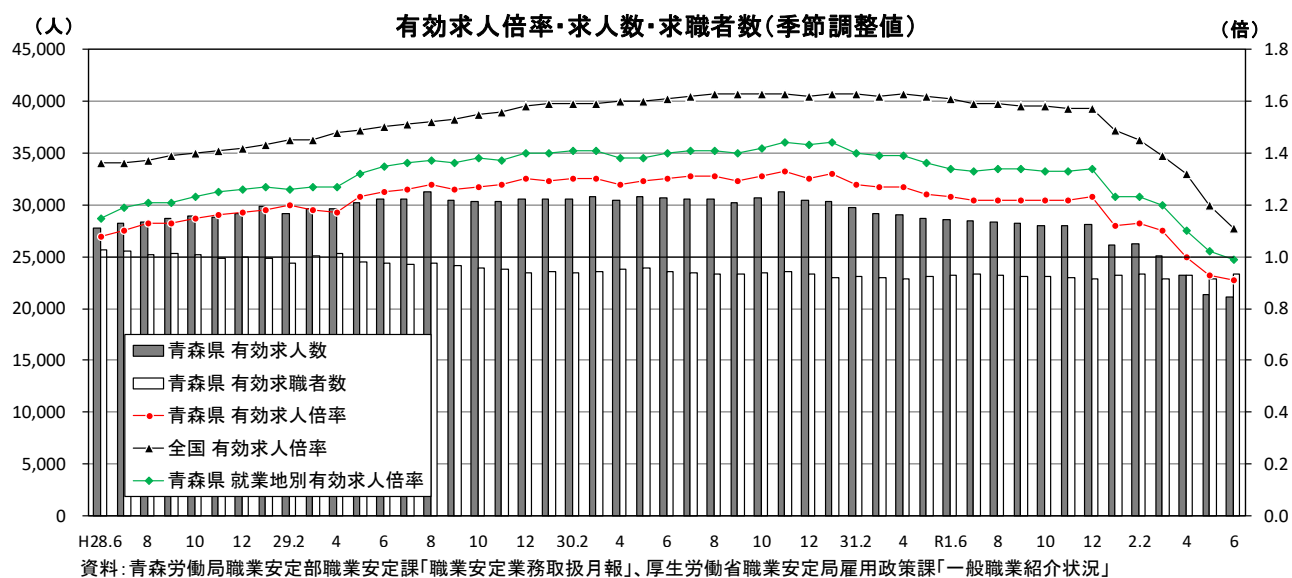
	実 数		指数（H27=100）		対前年同月増減率	
	青森県	全 国	青森県	全 国	青森県	全 国
現金給与総額	259,811 円	268,789 円	103.6	85.2	8.1 %	-2.3 %
定期給与	220,452 円	257,740 円	102.0	98.9	-0.6 %	-2.0 %
特別給与	39,359 円	11,049 円	—	—	—	-10.7 %
総実労働時間	137.4 時間	121.9 時間	88.9	84.4	-4.3 %	-9.3 %
所定内労働時間	129.6 時間	114.7 時間	90.6	85.9	-3.5 %	-7.6 %
所定外労働時間	7.8 時間	7.2 時間	67.8	65.5	-15.3 %	-30.7 %

- (注) 1. 「定期給与」とは、あらかじめ定められている支給条件、算定方法によって支給される給与のことで、超過労働給与（所定の労働時間をこえる労働、休日労働、深夜労働に対して支給される給与）を含みます。
2. 「特別給与」とは、給与の差額追給額（ベースアップ分）、3か月をこえる期間単位で支給される住宅手当や通勤手当、賞与（ボーナス）等のことです。
3. 「所定内労働時間」とは、正規の始業時刻と終業時刻との間から休憩時間を差し引いた労働時間のことです。
4. 「所定外労働時間」とは、早出、残業、休日出勤等の労働時間のことです。
5. 全国の数値については、平成30年11月確報から、平成24年以降において東京都の「500人以上規模の事業所」についても再集計した値（再集計値）に変更しており、従来の公表値とは接続しないことにご注意ください。また令和元年6月分速報から「500人以上規模の事業所」について全数調査による値に変更していることにご注意ください。

資料：県統計分析課「毎月勤労統計調査結果（速報）」

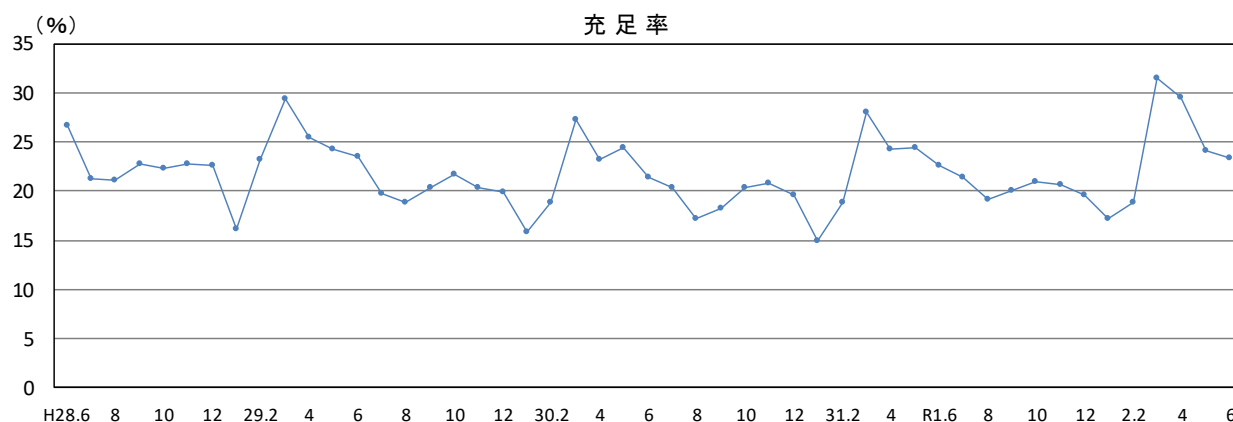
## (2-2-2) 有効求人倍率

令和2年6月の有効求人倍率（季節調整値）は0.91倍で、前月を0.02ポイント下回った。就業地別有効求人倍率は0.99倍で、前月を0.03ポイント下回った。



## (参考) 充足率（新規学卒者を除きパートタイムを含む）

令和2年6月の充足率は23.4%で、前年同月を0.7ポイント上回った。



## (2-3) 物価

令和2年6月の青森市消費者物価指数(平成27年=100)は、総合指数が101.8となり、前月と比べ2.2%の上昇、前年同月と比べ0.7%の下落となった。

生鮮食品を除く総合指数は101.9となり、前月と比べ2.5%の上昇、前年同月と比べ0.7%の下落となった。

生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は102.7となり、前月と比べ2.7%の上昇、前年同月と比べ0.6%の上昇となった。

総合指数が前月と比べ2.2%の上昇となった内訳を寄与度でみると、光熱・水道、交通・通信などの上昇が要因となっている。

総合指数が前年同月と比べ0.7%の下落となった内訳を寄与度でみると、光熱・水道、諸雑費などの下落が要因となっている。

※各指数の前月比の上昇については、令和2年5月の指数において、青森市で新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえて実施された、水道料金及び下水道料金の基本料金及び従量料金の5月検針(6月納付分)の全額減免による、大幅な下落があった影響が大きい。

図1 総合指数の動き

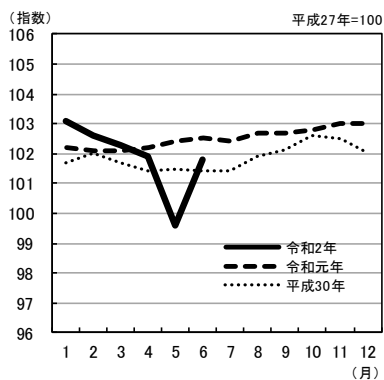


図2 生鮮食品を除く総合指数の動き

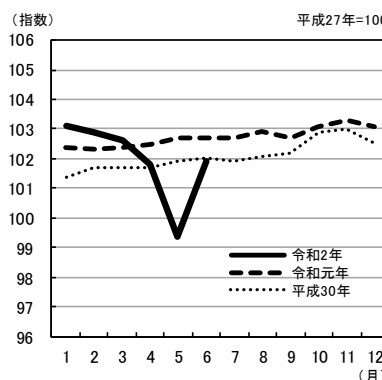
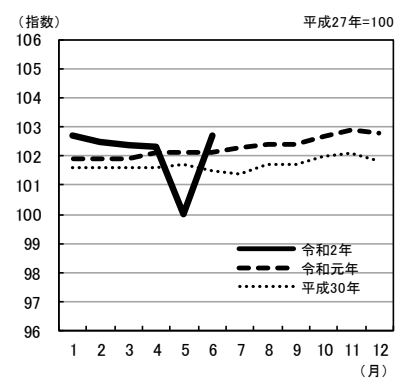


図3 生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数の動き



10大費目指数の動き

(平成27年=100)

	総 合	生鮮食品 を除く総合	生鮮食品及 びエネルギー を除く総合	食料(酒類を 除く)及びエネ ルギーを除く 総合	食 料	生 食	鮮 品	住 居	光 熱 ・ 水 道	家 具 ・ 家 用 品	被 及 履 物	服 び 物	保 健	健 療	交 通 ・ 通 信	教 育	教 養	養 楽	諸 雑 費
当月指数	101.8	101.9	102.7	101.1	106.0	98.6	101.4	99.2	104.1	106.0	102.6	96.1	95.2	103.9	96.8				
前月比 (%)	2.2	2.5	2.7	3.6	▲ 0.6	▲ 4.6	0.0	26.7	▲ 0.1	0.4	0.1	0.7	0.0	▲ 0.3	▲ 0.7				
寄与度	—	2.42	2.28	2.24	▲ 0.18	▲ 0.23	0.01	2.33	0.00	0.01	0.00	0.09	0.00	▲ 0.02	▲ 0.04				
前年 同月比 (%)	▲ 0.7	▲ 0.7	0.6	0.4	0.9	▲ 1.0	0.9	▲ 5.1	2.0	1.7	0.5	▲ 2.2	▲ 7.4	1.6	▲ 6.4				
寄与度	—	▲ 0.65	0.47	0.22	0.24	▲ 0.05	0.19	▲ 0.57	0.08	0.05	0.02	▲ 0.27	▲ 0.19	0.13	▲ 0.38				

資料:県統計分析課「消費者物価指数 月報」

※ **寄与度**とは、ある費目の指数の変動が、総合指数の変化率のうち何ポイント寄与したかを示したものであり、全費目の寄与度を合計すると、原則として、総合指数の前月比及び前年同月比(%)の値に一致する。

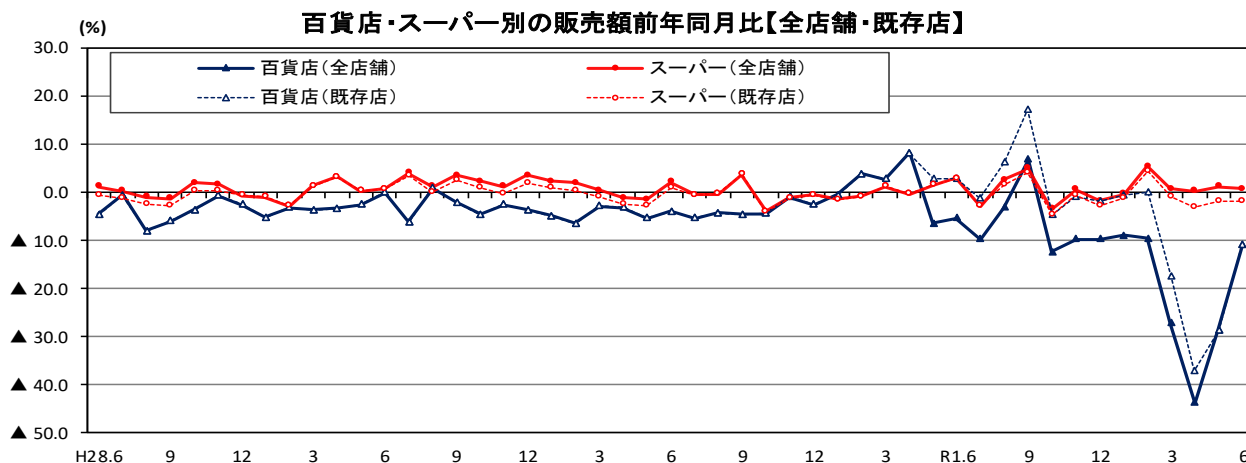
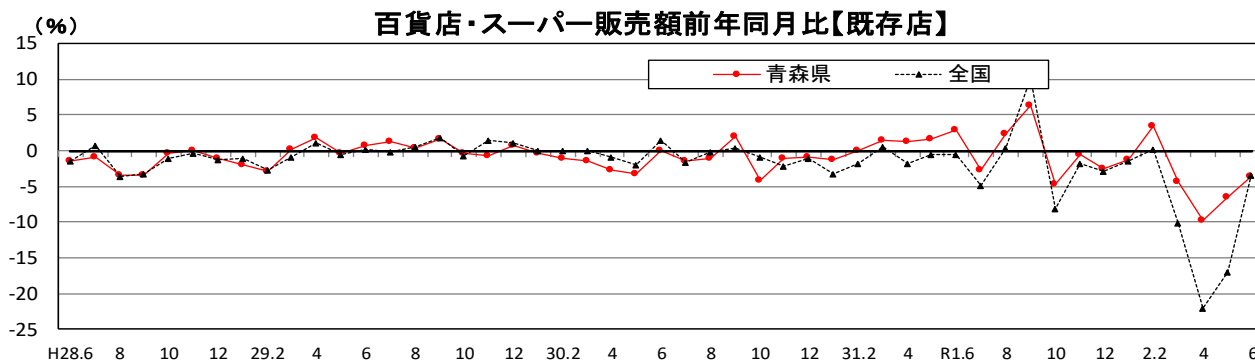
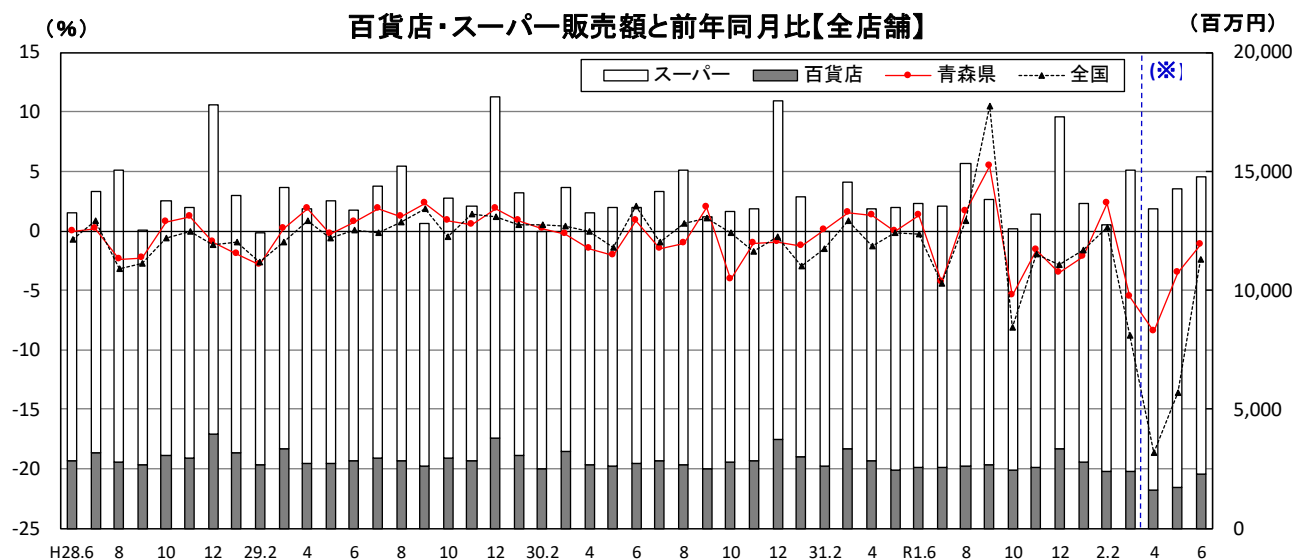
前月比、前年同月比及び寄与度は、端数処理前の指数値を用いて計算しているため、公表された指数値を用いて計算した値とは一致しない場合がある。

本資料は総務省統計局「小売物価統計調査」の調査票情報を独自集計したものである。

## (2-4) 個人消費

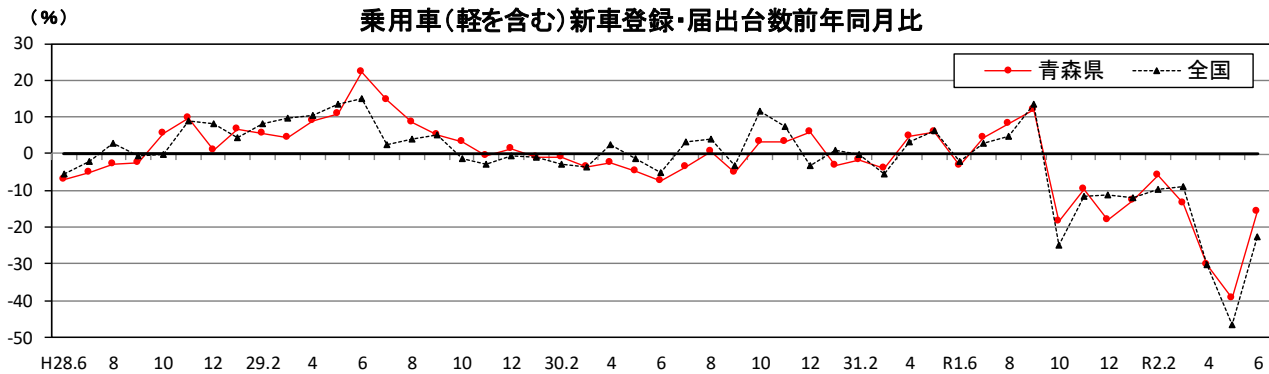
### (2-4-1) 百貨店・スーパー販売額

令和2年6月の百貨店・スーパー販売額は、全店舗ベースが148億円で前年同月比1.2%減となり、4カ月連続で前年同月を下回った。また、既存店ベースでは前年同月比3.6%減となり、4カ月連続で前年同月を下回った。



## (2-4-2) 乗用車新車登録・届出台数

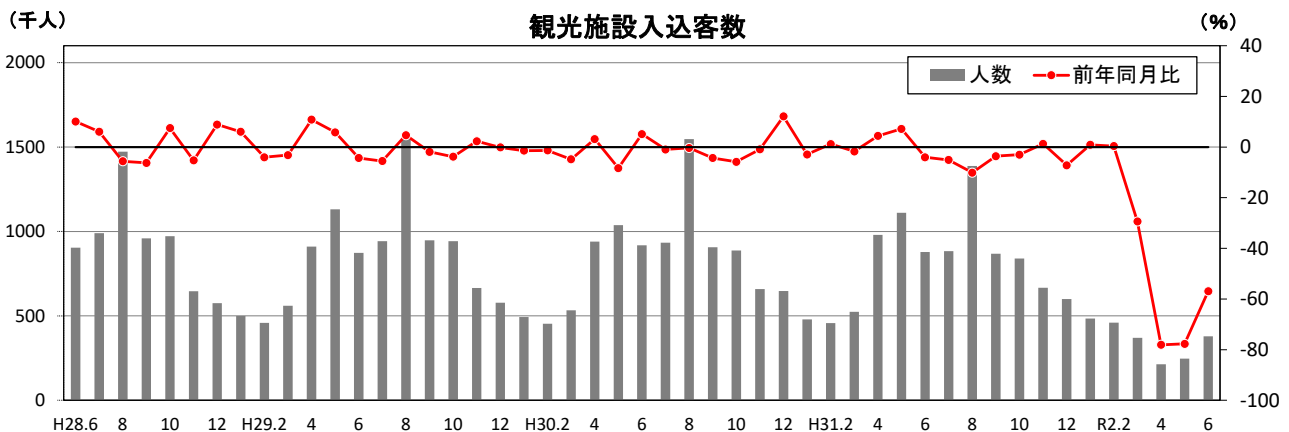
令和2年6月の軽乗用車を含めた乗用車新車登録・届出台数は3,204台で、前年同月比15.9%減となり、9カ月連続で前年同月を下回った。普通車、小型車及び軽乗用車のいずれも減少したことによる。



資料: 日本自動車販売協会連合会青森県支部「自動車登録状況 新車月報」、同連合会「自動車統計データ」

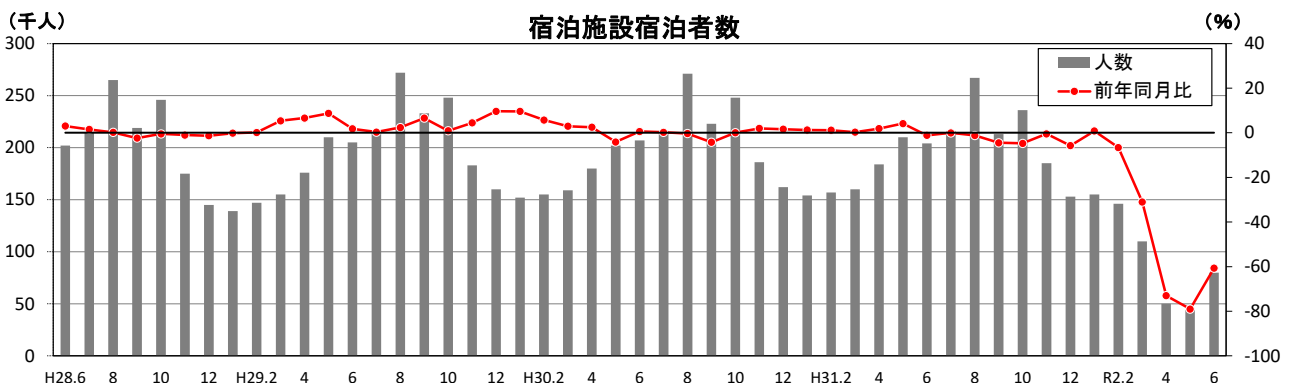
## (2-4-3) 観光入込客数・宿泊者数

令和2年6月の主な観光施設の観光入込客数は、37万9千人で前年同月比56.9%減となり、4カ月連続で前年同月を下回った。また、主な宿泊施設の宿泊者数は、8万人で前年同月比60.6%減となり、5カ月連続で前年同月を下回った。観光施設、宿泊施設ともに、県内全域で減少した。



資料: 県観光企画課「月例観光統計」

※観光施設35施設(H24年1月～H26年3月は35施設、H26年4月～H28年12月は34施設、H29年1月以降は35施設対比)



資料: 県観光企画課「月例観光統計」

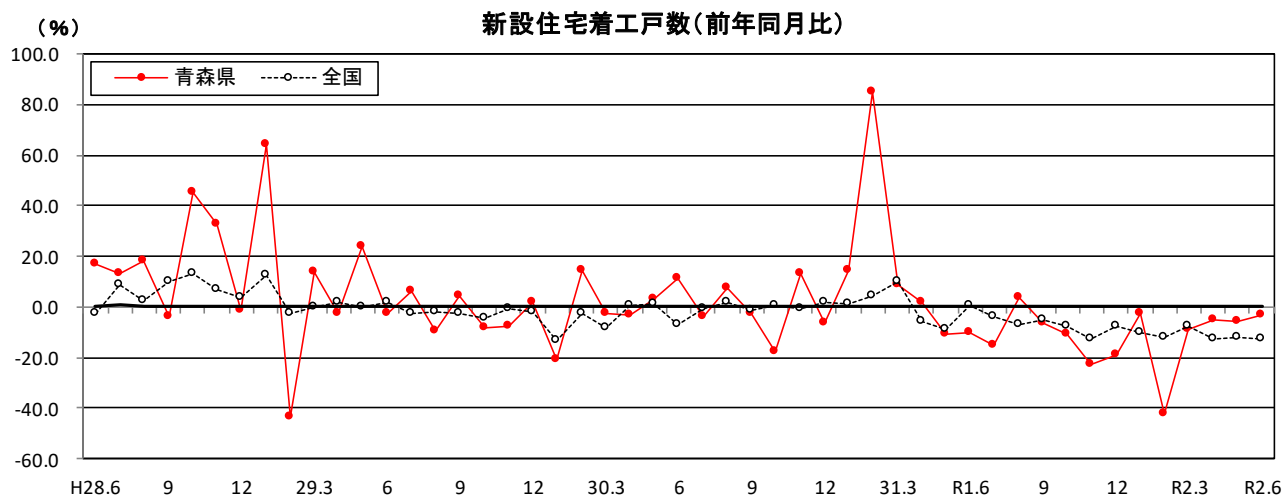
※宿泊施設 全県76施設(H30年6月まで79施設、H30年7月は78施設、H30年8月～R1年5月は79施設、R1年6月～7月は80施設、R1年9月～R2年3月は78施設、R2年4月～5月は77施設、R2年6月は76施設対比)



## (2-5) 建設

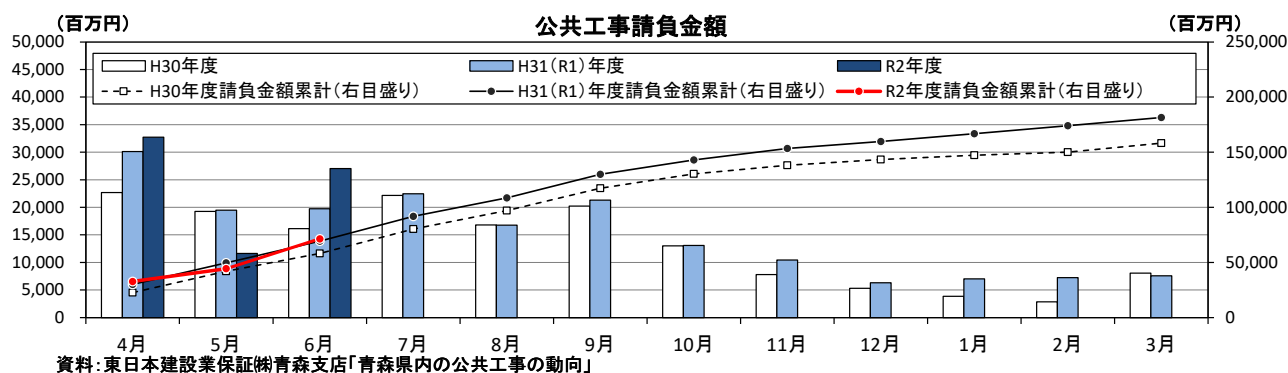
### (2-5-1) 住宅建設

令和2年6月の新設住宅着工戸数は577戸で前年同月比3.2%減となり、10カ月連続で前年同月を下回った。持家が減少したことによる。



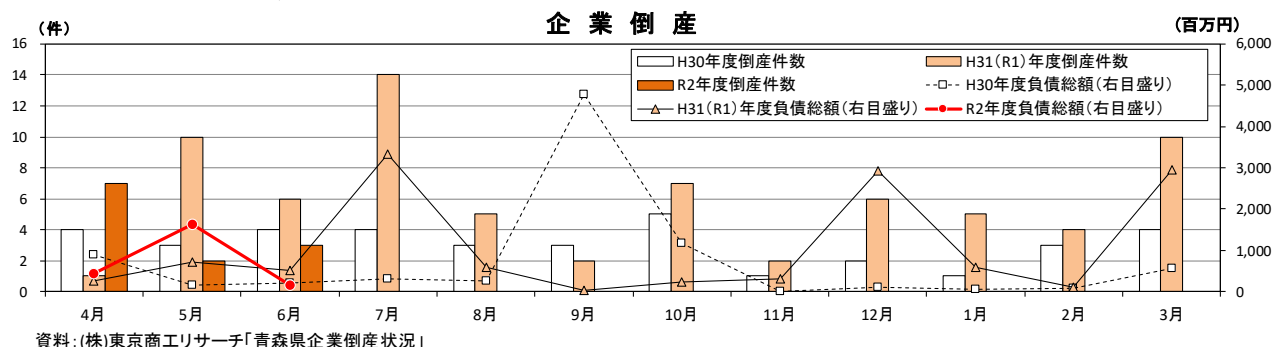
### (2-5-2) 公共事業

令和2年6月の公共工事請負金額は270億1,600万円の前年同月比36.8%増となり、市町村などの増加により2カ月ぶりに前年同月を上回った。また、令和2年6月までの累計金額は713億8,500万円の前年同期比2.9%増となった。



## (2-6) 企業倒産

令和2年6月の企業倒産は、件数は3件で前年同月比50.0%減となった。負債総額は1億5,100万円の前年同月比70.3%減となった。また、令和2年6月までの累計倒産件数は12件で前年同期比29.4%減、負債総額は22億3,100万円の前年同期比50.4%増となった。



### (3) 青森県景気動向指数

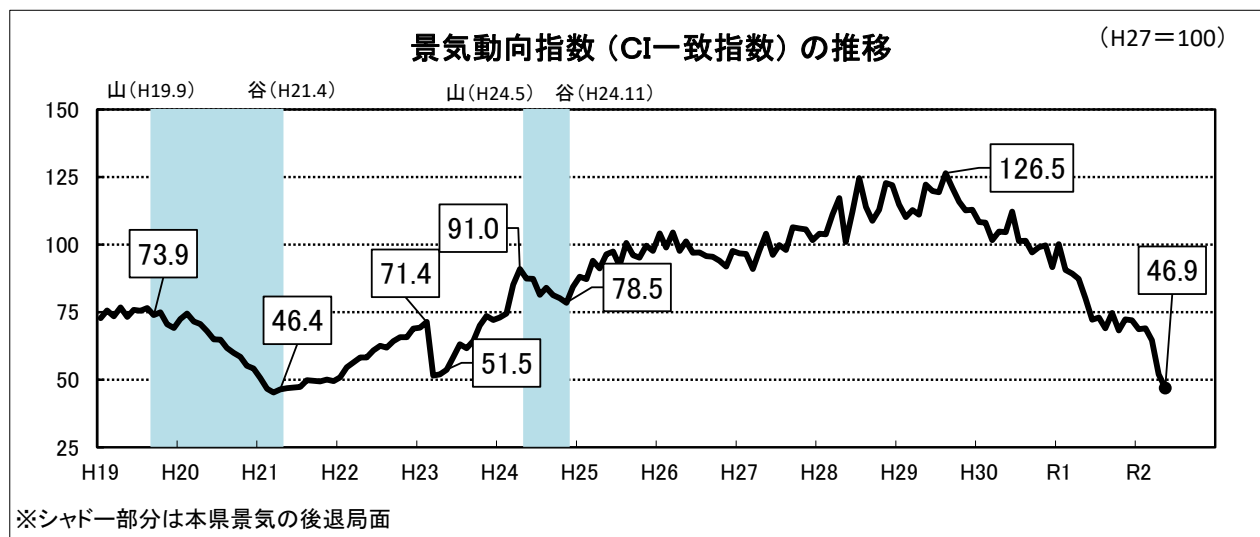
令和2年5月の青森県景気動向指数（C I）は、先行指数75.4、一致指数46.9、遅行指数101.0となった。

先行指数は、前月を1.8ポイント上回り、3カ月ぶりに上昇した。

一致指数は、前月を5.1ポイント下回り、3カ月連続で下降した。

遅行指数は、前月を2.9ポイント上回り、2カ月連続で上昇した。

5月の一致指数は、雇用、生産関連の指標がマイナスになったことから下降した。



#### ●個別系列の動き（各指標は季節調整等を行い、寄与度を前月と比較しています）

●個が示すのは動き（各指標は季節調整等を行い、前年度を前月と比較しています）

寄与度がプラスの指標			寄与度がマイナスの指標		
先行系列					
企業倒産件数（逆サイクル）	4.10	2カ月ぶり	生産財生産指数	-2.76	2カ月連続
新規求人倍率（全数）	1.54	3カ月ぶり	新設住宅着工床面積	-1.64	2カ月連続
建築着工床面積	1.26	3カ月連続	乗用車新車登録届出台数	-1.51	3カ月連続
日経商品指数（42種）	1.05	5カ月ぶり			
中小企業景況D I	0.07	4カ月ぶり			
一致系列					
百貨店・スーパー販売額（既存店）	0.66	3カ月ぶり	有効求人倍率（全数）	-3.28	3カ月連続
投資財生産指数	0.58	2カ月ぶり	鉱工業生産指数	-1.26	2カ月連続
			所定外労働時間指数（全産業）	-0.85	3カ月連続
			輸入通関実績（八戸港）	-0.78	2カ月連続
			旅行取扱高	-0.18	3カ月連続
遅行系列					
県内金融機関貸出残高	1.94	4カ月連続	公共工事請負金額	-1.50	2カ月ぶり
常用雇用指数（全産業）	1.36	2カ月ぶり	青森市消費者物価指数（総合）	-1.46	5カ月連続
家計消費支出（勤労者世帯：実質）	1.34	2カ月連続			
有効求職者数（全数）（逆サイクル）	1.07	3カ月ぶり			
りんご消費地市場価格	0.47	4カ月連続			

#### （参考）青森県景気動向指数（D I）

先行指数 25.0% （5カ月連続で50%を下回った）

一致指数 0.0% （5カ月連続で50%を下回った）

遅行指数 57.1% （5カ月連続で50%を上回った）

#### (4) 青森県景気ウォッチャー調査（令和2年7月期）

現状判断DIは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う緊急事態宣言が解除されたことなどにより、徐々に客数や消費活動が回復しつつあることなどを受け、前期比25.7ポイント増加の34.5となった。

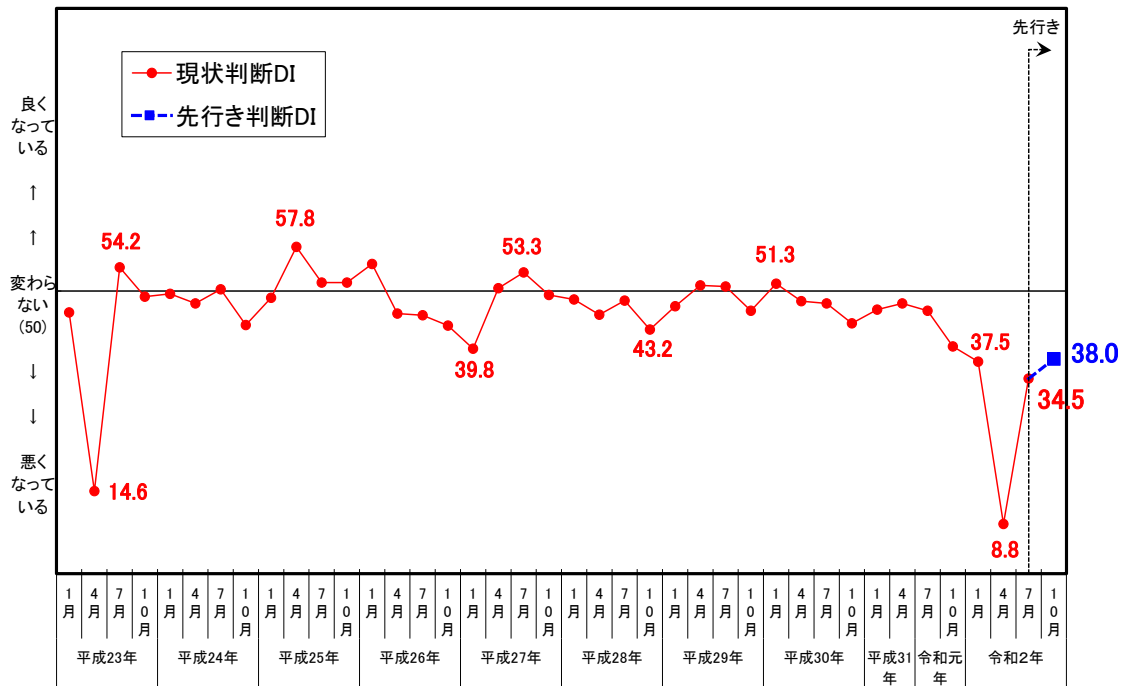
先行き判断DIは、経済活動の回復への期待などにより、前期比26.6ポイント増加の38.0となり、過去最高の上げ幅となったが、夏祭り等の中止が経済活動に及ぼす影響への懸念、感染が再び拡大することや終息の時期が見通せないことを警戒する声もあった。

3カ月前と比べた景気現状判断DIは、景気の横ばいを示す50を10期連続で下回った。

3カ月後の景気の先行き判断DIは、景気の横ばいを示す50を5期連続で下回った。

（調査期間 令和2年7月1日～7月17日 回答率 100%）

景気現状判断DIの推移・今後の先行き判断DI



#### ● 3カ月前と比べた景気現状判断

動

前期調査と比べると、「良くなっている」が4.0ポイント増加、「やや良くなっている」が15.0ポイント増加、「変わらない」が16.9ポイント増加、「やや悪くなっている」が7.8ポイント増加、「悪くなっている」が43.7ポイント減少となり、全体では25.7ポイント増加の34.5となった。

向

判断理由では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う緊急事態宣言や移動制限が解除されたことにより、徐々に客数や消費活動が回復しつつあるという声の一部ではある一方で、悪い状態のまま変わっていない、3カ月前と比べれば回復しているが、感染症の影響は依然として続いているとの声が多かった。また、4～5月において最も経済活動が悪化したという声も多く、店舗の休業や閉店に関する声もあった。

地区別では、前期調査と比べて、全地区でポイントが増加したが、いずれの地区においても景気の横ばいを示す50を下回った。

#### ● 3カ月後の景気の先行き判断

動

前期調査と比べると、「良くなる」が増減なし、「やや良くなる」が19.0ポイント増加、「変わらない」が17.9ポイント増加、「やや悪くなる」が13.9ポイント増加、「悪くなる」が50.7ポイント減少となり、全体では26.6ポイント増加の38.0となり、過去最高の上げ幅となった。

向

判断理由では、徐々に経済活動が回復することへの期待を挙げる声があった一方で、ねぶた祭をはじめとした夏祭りやイベント等の中止が経済活動に及ぼす影響への懸念や、キャッシュレスによるポイント還元事業の終了、先が見えない不安、感染が再び拡大することを警戒する声などがあつた。

地区別では、前期調査と比べて、全地区でポイントが増加したが、いずれの地区においても景気の横ばいを示す50を下回った。

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」

### ○3カ月前と比べた景気の現状判断理由

◎	6/19移動自粛解除後、ホテルへの県外宿泊者が増え、各種宴会利用も動き出した。直近では、団体のみならず個人利用（小グループ）や個人のレストラン利用者もあり、景気の動きを左右している消費行動が伸長していることが実感されるため。（都市型ホテル=東青）
○	6月に入ってから、客数や売上が週を追うごとに前年に近づいている。また衣料品や宝飾品など低迷していた高額品にも動きが見え始めている。（百貨店=東青）
○	3カ月前と比較すれば。僅かであるが、経済が活動し始める気配がある。（広告・デザイン=東青）
○	3カ月前である4月はコロナ禍の中、最大限外出を控えた最悪の状態であり、そこと比較すると「やや良くなっている」と思う。（人材派遣=津軽）
□	3月頃からコロナウイルス感染症の影響で集客が落ち込み、低迷が続いています。（パチンコ=東青）
□	3カ月前の3ヶ月間も今の3ヶ月間も前年比10%減少で変わらず。（一般小売店=津軽）
□	3カ月前に比べると同じような景気だと思います。その後ゴールデンウィーク前後を底にして酷い状態でした。例年に比べれば非常に悪くなっています。（ガソリンスタンド=下北）
□	非常事態宣言が解除されたとはいえ、まだ以前のような積極的な行動は見えず、自粛のムードは残っている。皆まだ飲食を伴う外出は控えているようなので、夜の歓楽街は閑散としている。（建設=県南）
△	来店する期間が長目になっている。1カ月くらいの所が2カ月以上とか。（美容院=東青）
△	会合、結婚式、イベントの中止で経済が回らない。（衣料専門店=津軽）
△	スーパーはコロナの影響で数字が上がって来ていたがここにきて落ち着いてきている、今後は5%還元も終了するので多少落ち込むと予想される。（スーパー=下北）
△	コロナウイルスで世界各国が2～3カ月活動を止めたことにより、注文が必要間際までしてから出るようになっていく。各顧客とも確定した使用分しか注文を出さない。（電気機械製造=県南）
×	不景気な挙げ句、コロナの影響で深刻に悩んでいます。（スナック=東青）
×	売り上げが前年比△99.5%の為。（旅行代理店=津軽）
×	コロナ関係で飲食店が休業してるために、働いている方々が収入がない状況が続き、閉店するとかしないとか噂程度のもの、実際に閉店した店舗がある。失業した方々の受け入れ先もないようです。（卸売業=県南）
×	コロナの影響で売上、客数大幅減。（一般小売店=下北）
×	新型コロナウイルスの影響が大きい。特にサービス業（観光、飲食業など）の売上低下（自粛要請）に伴う求人数の減少の影響が大きい。（人材派遣=県南）

記号の意味：◎良くなっている、○やや良くなっている、□変わらない、△やや悪くなっている、×悪くなっている

### ○3カ月後の景気の先行き判断理由

○	やや良くなるという回答ではあるが、直近3カ月が限りなくゼロに近い状態であるのでまだまだ例年並みとは程遠い。（観光型ホテル・旅館=東青）
○	警戒解除で、気持の高揚感が出て、景気を少しずつでもupさせてくれることを期待する。（タクシー=県南）
○	青森県は一時期より落ち着いてきており、6月中頃から閉店していた店舗等も開店が始まっている。ただ、他県との取引の多い業種に関しては、遅れて受注の減少が見えているようだが、さすがに8月以降は回復に期待している声が聞かれた。（経営コンサルタント=津軽）
○	新型コロナウイルスの感染拡大が一時期より収まり、徐々に経済活動が戻りつつあり、以前より多少は持ち直す（希望的観測もあり）と思うが、完全に収束しておらず依然として警戒が必要な状況にある中では、改善には時間がかかると思う。（新聞社求人広告=東青）
□	イベントでの来場数、商談数が増え続けている。秋ごろまでこの勢いは続くと思われる。冬以降は心配（第2波？）。（住宅建設販売=東青）
□	3カ月先はどうか、全く先がみえない。（レストラン=県南）
□	まだまだ3カ月位だと今の状況は変わらないと思う。（都市型ホテル=下北）
□	今よりは改善が期待されるが、感染再発生でブレーキがかかるだろうし、そのような状態が続きそう。なかなか景気は戻りそうにない。（飲料品製造=県南）
□	仮に青森県内でコロナ禍が小康状態であったとしても、昨年10月の消費税増税と、更に先月6月には増税軽減措置も終了したことで、買い物を手控え景気は低調だと思う。（人材派遣=津軽）
△	6月に入りコロナ緊急事態は緩和されましたが、三密状態を維持することから主だったイベントは中止、人々の交流は制限されとても明るい状態ではないです。（衣料専門店=東青）
△	6月の売上げがキャッシュレス5%還元最終月ということで4月・5月のかなりの落ち込みを少しだけとりもどしたので、7月からはかなりきびしいであろう。（一般小売店=津軽）
△	現在は特別給付金でお客様の動向が非常に上向きだが、少し先にお客様が動いている反動がかならずある。（家電量販店=県南）
△	新型コロナウイルスの影響は、今後、新たに製造業へと波及していく様なので、更なる景気悪化（求人減少）へと向かうと考える。（人材派遣=県南）
×	先が全く見えない。どうしたら良いか正直とまどう。（一般飲食店=東青）
×	新型コロナウイルスの第2波、第3波が来るものと予想。（広告・デザイン=東青）
×	コロナ感染での経済悪化は必然で有り、程度は別として業種を問わず景気は悪化していくと思われる。（広告・デザイン=津軽）
×	弘前ねぶたまつり、五所川原立佞武多、青森ねぶた祭など各地で相次ぐ夏まつり中止の影響は甚大。交通や宿泊、土産・飲食といった観光産業がどうなるか心配だ。（新聞社求人広告=津軽）

記号の意味：◎良くなる、○やや良くなる、□変わらない、△やや悪くなる、×悪くなる

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」